

成人向
同人誌

少女リデミアに
魔の手がせまる！





と叫ぶはず先に進む
→ ○ 2 ○ へ



急いで引き返す
→ ○ 4 ○ へ



かくしつかる発見！
中に入ってみる
→ ○ 7 ○ へ



その場で助けを待つ
→ ○ 11 ○ へ

暗いダンジョンの中…
ひとりの女の子が
途方にくれていました。



セシム…

とほ

とほ…

女の子の名前はリディア。
どうやら旅の仲間と
はぐれてしまったようです。
魔力も尽きた今、
もしモンスターに奪われたら…

『うう…マワイなお…
わたし、これから
どうすればいいの…？』



「お嬢ちゃん……どうしたの
お嬢ちゃん？迷子？」
「リディアは運悪く
盗賊の集団に
出会ってしまった。
」「そんなところにはいたら危ない、
俺達がお世話」
連れ戻ってあげよう……
でも、そのまえに……ヒヒヒヒ」

「盗賊たちは怯えるリディアを
歌人がかりで押さえてつけます。
ヤシマ……」
「さー、お嬢ちゃん？
今から君の身体
味見するからね……
ヤラッ……」
「お……お嬢ちゃん……」



「い、いたいたいいたい……」
「おお縛まる縛まる
それにいっい声で鳴きやがる
きつと高く売れるぞコイツ、
ヒヒヒ……」

人買いから受け取る
金貨の枚数を想像し、
ほくそ笑みながら
リディアの「味見」を
続ける盗賊たち。
彼らの愚行を止めるものは
誰もいません……



「ふう……良かったよお嬢ちゃん
……それに、約束どおり
お世話につれてってあげよう
……とさっさと……フフ、
君が今までいたのとは違う
「マカイ」に……だけども……」

数日後…
とおる町の片隅、
おやしげな館の中に
リディアの姿が
ありました。

「お？新人りきんか？
うーん…ちっちゃくて
可愛いな…」

「(…)(…)
「このお店がどこをトクか…
リディアちゃんをわかってる？」

「おやしげな館の中に
リディアの姿が
ありました。」

「はっ！…おなせ！今日は
りきんとお話をしようか！
いっはいお話をしようか！
お話をしようか！」

「りきんとお話をしようか！
今日は、りきんとお話を
しようか！可愛いリディア
ちゃん、お話をしようか！
いっはいお話をしようか！」

娯館に売り飛ばされて
しまったリディア…
待っていたのは
ロリコン専用娯館として
変態中年たちの慰み者に
される日々でした…

げんねん！リディアのたびはここでおわってしまった！

「…オンナ…オンナ…」
ダンジョンを走る
リディアの足音を聞きつけ
あらわれた人型モンスター。
どうやらリディアを
一目みて気に入ったようです



「…やっ…はなして…
キミをトロ、舐めたいわっ…」
子供の足では逃げられるはずもなく、
あっさり捕まってしまったリディア。
幼いカラダをモンスターに
好き放題に弄ばれてしまいます。



びんちん

ちゅぽっ

ぶろお

ん…
いやあっ
きもち
わるいっ

アッ=っ

「…え、たが…
…っ、いたっ…やあ…っさあ…
キミの入れない…入れないよあ…」
幼いスジを捜査し、舐めまわし、
柔らかい頬に巨大な肉茎を擦り付ける…
が、モンスターの欲望は到底満たされない。
欲望を満たす行為…目の前のワレメを見る。
「だっ、イレル…ロロ…おっ、…」

「……」
モンスターは
巨大な肉壁で
少女の体を
一気に書きました。



巨大な異物が
未成熟な腔を限界まで押し広げる
その苦痛に悲鳴を上げるリディア。
ギンナリディアを押しさへつけ、
さらに深い結合を求め陣を進めるモンスター。
そして、欲望のままに抽挿を始めます。

幼い瞳を躊躇する感触に併いしれ
夢中で腰を振るモンスター。
キの欲望がリディアの中脳界を迎える。

はあ
ああ
ああ

ああ
ああ

んん

んん

んん

んん

性欲を満たし、満足げなモンスター。
ですが...どうやらリディアを手放す気は無いようです。
『ゲフフフ...コイツ、おでノモノ...おでノ...オシナ...ゲフッ』
リディアはモンスターに抱えられ、彼の住処に連れて行かれてしまいました。
これから毎日、おのモンスターに幼いカラダを犯され続けるのでしょうか...

んん

んん

んん

んん

んん

かくしつうろを
抜けた先は…
触手モンスターの手でした。
リディアは
おっという間に締め握られ
裏の奥に引きずり
込まれてしまいます…

「さっ…さっ…さっ…
さっ…さっ…さっ…」
触手たちに拘束され、
幼いカラダを
弄ばれるリディア…
そのめめった先端で
未成熟なワレメを、
小さく穿まったアナルを
執拗に責め立てていく…

「おっ…おっ…どう、してっ…？
カラダ…おっ…おっ…おっ…」
触手の粘液に含まれた補養成分…
それを敏感な粘膜に擦り込まれ、
リディアは否応無く性的快楽に
目覚めさせられていきます…





…やがて射精を始める触手達。
粘液の数倍の促進効果を持つ
触手の精液…その促進精液が
リディアの中にどくどくと
注ぎ込まれていきます…

これは最後の仕上げでした。
無垢な少女を性処理ベットに
つくり変えるための…



『まだまだ...
お尻を...
お尻を...』

『お尻を...
お尻を...
お尻を...』

敬時間後...
すっかり性処理ペットとして飼いなうせ、
自ら求めるようにまでなつてしまつたリディア。
えっちなおねだりに応じるかのように
彼女を犯していた触手が精液を吐き出す

『お尻を...
お尻を...
お尻を...』

『...た、この...
お尻を...
お尻を...』

は...
は...
は...

げんやん！リディアのたびはさきでおわってしまった！

「おーい、リディアー！
どこにいるんだー！」

自分の名を呼ぶ懐かしい声。
仲間が、来てくれたのだ。

『お……セシルっ！』

泣きながら仲間飛びつくリディア。

『うう……怖かった……怖かったよお……』

「よかった、無事で…
さ、こんな危ないところ早く出よう」

『うっっ！』



— 奥付 —

発行 : 電磁誘導
著者 : 村田電磁
発行日 : 2009/8/16
連絡先 : denjiken@mail.goo.ne.jp
HP : <http://denji.h.fc2.com>
印刷 : おかつき印刷さま

2009 電磁誘導